

2024年10月12日

ESDユネスコ世界会議＋10Yearsフォーラム～あいち・なごやから世界へ～

ESD（持続可能な開発のための教育） と 危機に立ち向かう地域環境政策

あいち・なごやのレガシーから、未来への歴史が始まる。
自身の満足・成長とともに、地域、日本、世界中の幸福を願って！

中部地方環境事務所

小森 繁

自分にとってのESDとは？



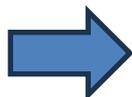
仕事だが、うまく言えない(大反省)

○1992年 地球サミット / 環境庁入庁

・環境基本法、第一次環境基本計画の若手担当
「環境の保全に関する教育、学習等」

○2023年 環境教育等推進法基本方針の見直しの
初期に関与

今回、公式記録を読んで・
世界と地元の「熱い人々」!
ESDとは、
「人間の勇気と元気
の集合」と改めて実感



継続は力なり: 中部ESD拠点、自治体、教育機関等の取組

昨年の生物多様性パネルディスカッションで、 愛知ESDの力強さを実感



- ・生物多様性条約締約国会議 COP15にユースとして出席。
中部大学の鈴木さん



- ・コンビナートの工場群の緑地と、若者、地域を結んで、
自然共生サイト「知多半島グリーンベルト」に。
日本エコロジスト支援協会の北村さん

危機に立ち向かい続けた、この10数年

○2011年3月11日 東日本大震災

○2020年1月 新型コロナウイルス感染症拡大

○近年続く、酷暑、熱中症の危険

異常気象と激化する災害

○2024年 能登半島地震

・環境危機、経済社会課題、分断と紛争が増している世界の中で、私たち日本は、環境・自然資本を軸とした「ウェルビーイング／高い生活の質」を上位目標とし、新しい経済社会づくりを決意。

・「勝負の2030年」は、将来世代のため、ふんばりどころ

(第六次環境基本計画 2024年5月閣議決定)

地域循環共生圏は構想から様々な行動へ

- **環境×地域づくりの拠点が増加中！ 未来へ広がり**
 - ・ 世界気候エネルギー首長誓約／日本 49自治体
 - ・ ゼロカーボンシティ宣言 1112自治体
 - ・ 地域循環共生圏 200以上の地域・自治体
 - ・ 脱炭素先行地域 82地域（32道府県、108市町村）
 - ・ 自然共生サイト 253カ所（自治体、企業、個人様々）
 - ・ これからは循環経済（サーキュラーエコノミー）も！
- **地域の元気で反転攻勢 かつてに「ニッポンポジティブ」**

地域の財産・資本（自然、環境、文化等）を守り、磨いて、価値が生まれる！ 地域づくりと人づくりは車の両輪！
人口減少の時代だからこそ、ESDの任務は重大！

環境省の施策

- ・ ESD活動支援センター、GEOC、EPO等を活用した、環境教育・協働取組の充実、人材の育成
- ・ 国立公園や自然共生サイト等での体験活動の推進

中部地方ESD活動支援センター及び 中部環境パートナーシップオフィス(EPO)の取組

○気候変動社会教育・社会への実装 「学び合いの場の作り方」(2024)

- ・6月～10月「学び合い」の場の開催、研究会
- ・11月実践活動、その後、全国への発信など

<https://www.epo-chubu.jp/tool/esdworkbook>



○自然資産を活かした地域・人づくりESD ダイアログ(2024年11月、飛騨高山)

(会場) 飛騨高山まちの博物館

中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターなど



(参考) 中部地方ESD活動支援センター及び 中部環境パートナーシップオフィス(EPO)の取組

